

## 平成 26 年度飯山市美術館運営協議会（第 2 回）会議録

日時：H27. 2. 26（金）15:00～

場所：飯山市公民館 101 会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

#### ・協議会長

皆さんお忙しい中ありがとうございます。

年に何回もないこの審議会でございますが、特にこの 2 月の審議会では今年度の実績の内容についての報告、新しい年度に向けての計画も出てまいります。それぞれ審議をよろしくお願いいたします。

#### ・教育長

皆さんこんにちは。改めまして、お忙しい中ありがとうございます。また、ここにおられる先生方にはいろいろなどころでお力添えをいただきまして、ありがとうございます。

美術館の規模は小さいですが、職員が一生懸命関わっており、市民からもそれなりにご理解と支持をいただいております。文化交流館ができた後は美術館と並行した形でいろいろなことができるのではないかと思います。また今年度、来年度よろしく申し上げます。

### 3 報告事項

#### 平成 26 年度事業報告

事務局：資料 3～6 ページについて説明

会 長：小学生から高校生を対象にワークショップを行っているが、参加した皆さんのその後の状況など追跡調査をしておき、更に継続してやって行ければ良いのではないかと思う。

委 員：城南・城北中学校美術部展は今回 5 回目であったが、毎年開催しているというように考えて良いか。

事務局：そのとおりで良い。

委 員：平成 22 年度は年間で 8,000 人、26 年度は少なくなって約 6,200 人とのことであるが、10 月の入館者数が 22 年度は何か特別な企画展などがあって約 3,000 人入っているのか。26 年度は長谷川青澄展があって約 1,200 人ということでかなりの落ち込みが見られるが、これを何とかして食い止めないとギリギリになってしまいそうな気がする。今後は企画展を開催する中で強化策などの考えはあるのか。

事務局：毎年 10 月に総合学習センターフェスティバルを開催してるが、今年度は同じ日に飯山城

築城 450 年のイベントを行った。そのためにそこへかなりの人が集まったこと、また当日大雨だったことも影響したのか、ふるさと館など他の施設も 10 月の入館者数は落ち込みを見せている。そのあたりが大きな原因と考えられる。

委員：それはある程度理解できるが、少なくとも約 2,000 人で推移できるような企画をどんどん打たないとギリギリになっていくような気がする。

会長：22 年度はどんな企画展があったのか。

事務局：企画展としては、「北信濃に原風景を見た美術家たち」ということで、飯山市出身で市外や県外で活躍されている美術家を取り上げた企画展を開催した。

委員：必ずしも人数だけ多ければ良いというものでもないし、中身の濃いものがあればそれはそれで良いと思う。26 年度の長谷川青澄展はかなり見ごたえがあるものであったと思う。

委員：資料 5 ページの内訳を見ると、個人の小中、団体の小中の数が伸ばせていないのではないかと。ここをどのようにするかという方策を来年度もう少し考えていけば良いのではないかと思う。2,000 という数が具体的に挙がったが、ここがポイントではないか。

会長：学校で美術館に見学に来ることがあるが、市内まとめたの動きなのか？

委員：学校ごとに対応が違うと思う。まとめて何かしましょうということではない。

委員：美術（図工）の教科書にも「美術に親しむ」というような項目があるが、みんな美術の専門家ではないので、絵を展覧会に出して対応していると 1 年終わってしまうという状況が外から見てもわかるので、そんなところをこれからどうして行くかという所を、私自身もただ見ているだけでなく、頑張らなければいけないという思いでいる。

会長：高校の美術部の展覧会がかつて開かれていたと思うが、美術館で展示することなどはできないものか。

委員：今はもう開催していない。数もたくさんあるので難しいと思う。

委員：今、信濃美術館で展示されている水彩画県展は長野市内の高校生からもかなり募集をしており、高校生とは思えないような作品が展示されている。見るとかなり刺激を受けるものである。

会長：春に市民芸術祭を開催しているが、そういった所へ高校生の作品を出してもらうのも 1 つの方法だと思う。

事務局：小学生は、ふるさと館を利用して体験教室などを行うことがあるが、その際に美術館の見学をセットにしてもらえよう、こちらからの呼びかけも必要と思う。

委員：学校生活を終えて社会に出ると、美術館に親しむということができにくい状況になるため、小中学校のうちにキチツとしたところでキチツとした作品を見るという体験ができるように、校長会などでも呼びかけてもらおうと良い。

#### 4 協議事項

##### (1) 平成 27 年度事業計画（案）について

事務局：資料 7～9 ページについて説明

委員：企画展ワークショップの件で、まだあまり参加者が集まっていないような話があったが、参加者を飯山市内の方に限定している訳ではないと思うため、時期的にも新幹線開業後であるし、積極的に外に向かって PR をした方が良い。

委員：新幹線沿線美術館の企画展を開催するとのことだが、作品を借りるということが今までは無かったが、今度そのようなことをすると相手先との関係ができるため、それを今後どのように利用しようと考えているのか。飯山では相手方の美術館の紹介をするが、逆に相手方では飯山市美術館の紹介等はどうなっているだろうか。例えば飯山から作品を送って展示してもらおうなど、今まで無かった相互のつながりができたので、これからは日常的に交流を持ってやっていくことが必要なのではないかと考える。そのようなことをしながら金沢まで行けばいろいろな施設があるし、新しくできることも出てくると思う。今回作品を借りてきて展示してそれで終わりということではなく、日常的に多少お金がかかるかもしれないが連携を取ってやっていかないと、単発的になっては意味が無いように思う。

また企画展の宣伝に関して、今は宣伝しないとダメな時代であるので、自分たちが考えられるところには全て宣伝していかないといけない。ホームページなど使って、地味ではなく大きく打ち出していくべき。

会長：実際のPR方法はどのようにしているのか。

事務局：飯山市のホームページ、市内全戸へのチラシ配布、i ネット飯山でのPR、近隣美術館等へのチラシ等送付、全国にある和紙関連施設へもチラシ等を送るなど、いつもより手広くしているが、不足がないようにして行きたい。

会長：いよいよこれから観光都市として動いていくため、そのあたりにも経費をつぎ込んでもらって対応して欲しい。

委員：信毎の木曜日の展覧会案内への掲載は動員力があると思し、長野市民新聞などネタを必要としているところもあるので、そうゆうところを利用すると近隣の市町村にもPRできる。

会長：美術館だけでなく、観光局なども通じて発信していけると良いと思う。

委員：齋藤一郎展のチラシ等は新聞社へは送っていないのか。

事務局：信毎も含めて送っている。また、近隣のローカルな新聞社へもお知らせしている。企画展の情報を載せたいと言ってきた新聞社もあるが、会期がまだ先であるため掲載が後回しになっているということも、ワークショップ申し込みの反応が少ない原因の1つと思われる。

委員：これをやれば必ず100人・200人来るというものは無いと思うが、口コミで広がっていくことが大切。

会長：齋藤一郎展は「和紙」ということで開催するため、これを機に何かの形で盛り上げていくことを、美術館だけの問題でなく何とかして考えていく必要があると感じる。また、美術館の近くに和紙体験工房もあるので、何か良い方法で盛り上げて行ければと思うが。

委員：和紙体験工房の管轄は課が違うのか？

事務局：商工観光課の管轄である。

館長：過日の伝産会館・美術館連絡会議の際に、施設の間にある川に橋を架けてはどうかという話も出ている。

委員：ぜひ続けたいといけない。管轄が違うと言って、内山紙のことを体験できる場所と美術館がバラバラでは（行き来できないようでは）ダメだと思う。興味がある人が美術館を見たときに、和紙の体験がここへ行けばできるという話になれば全然違う。橋ではなく

て、美術館のどこかからつながって向こうへ行けるというものを作っていくことが必要ではないか。飯山の魅力である和紙の扱い方が、ちょっとうまくいっていないという気がしている。

館長：和紙体験工房と美術館の行き来について、ようやく具体的な話が出て来たので、更に継続・発展をしていく。

会長：極論ではあるが、2階の和紙の展示室の一角で和紙を漉くことができないだろうかと感じている。

教育長：経費がかかり過ぎて撤退させられた経過ある。新幹線が来たことで、もう一度見直す時期が来ていると思う。

事務局：つなぎ（橋）の関係は、我々なりに検討はしてみたが、農業用水の関係やその他にも問題もあるようだ。

委員：飯山は和紙や仏壇など他の市町村には無い「武器」がある。長野市は善光寺があるだけで引き止めるものが何も無いし、善光寺の周りに東山魁夷の美術館があるが寄らない。連動性がないし地元のものがほとんど無い。しかし、飯山は看板になるものがあるため、ぜひ市長部局や観光関係のところにも理解をいただいて、「雪の町いいやま」だけでなくこれを宣伝していかなければいけないと思う。

委員：観光課はセクショナルに堅苦しくなってしまう。観光局ができているため、美術館と観光課の間を取り持って、1つの観光プランを作って東京や金沢の皆さんに売り込んでいくぐらい積極的にやらないと、信越自然郷とだけ言っても繋がっていかないと思う。

委員：飯山には良いものがあるがまだ「点」である。たくさんある点を回るようにコーディネートされていないと思う。自分たちのルート（導線）を意識的に作って、その中に美術館やふるさと館も入れて提案をしていく必要がある。飯山に人が来なければ美術館にも人が来ないので、まずは人を呼ぶための導線を作っていくことが今ものすごく大切な気がしている。課が違うとかではなくて、積極的に提案をしていくのが美術館のためにも良いような気がする。

事務局：これから開館する文化交流館も大事に多目的に使用していかないといけない場所である。回遊性（導線）という面では、案内看板も統一されたイメージで設置されているし、西敬寺横のポケットパークができたりして考えられてはいるが、どちらかというとは今は駅前に集中しているという形である。今後、美術館へはどちらから回ってくるルートが主流になるのかわからないが、愛宕町や神明町の寺院郡とのつながりも考えていかなければいけないと思っている。相乗効果も考えなくてはいけない。

委員：企画点などの宣伝の仕方、多くの方を取り込むには、単発よりも他のものと繋げて線にして、この時期に来たらこれがあるということがわかるようにすると良いと思う。飯山市全体が見れるような工夫が欲しい。

委員：6月6日（土）の齋藤先生のギャラリートーク、齋藤先生に全てお任せではなく、齋藤先生の作品に造詣が深い方が間に入って対談という形を取らないと、なかなか話が広がらないのではないかと。ただ話すだけ聴くだけにならないように進めるのが良いと思う。

事務局：当日の構成は、先生自らが考えるということで、現在考えていただいている最中である。資料等には齋藤先生だけが話すような書き方になっているが、もう1人誰か間に入って作品と先生を繋ぐような形で齋藤先生も考えていると思う。

- 会 長：和紙が世界文化遺産になった今、和紙の里である飯山をアピールしていくチャンス。美術館だけでなくみんなで考えていく必要がある。やるとなったら予算的にも思い切っ  
て出していただきたいし、これは3～4年経ってからでは遅いと思うし、やるなら今、  
今年だと思う。
- 館 長：齋藤先生も会長と同様な考えを持っている。また、手すき和紙工房にいる平田さんが知  
り合いと組んで個展なども開いているが、いくら情熱を注いでいる平田さんと言えども  
周囲の支えがないとモチベーションが続きにくいという部分があるため、サポート体制  
も含めて会長の話のようにやっていかないと、という感じがしている。
- 会 長：美術教室など開催した際、単発的にやって終わりということではなく、後始末（その後の  
継続的なこと）のことも考えてやって欲しいと思う。
- 委 員：夏休み・春休みの体験教室の企画の件で、小中学校の先生方から、こうゆうことをやっ  
てもらえばありがたいという要望みたいなものというのではないか。そのようなことを拾  
い上げることは、美術館としてやらなければいけないことかどうか。
- 委 員：それはできないことではないと思う。
- 委 員：現場の先生方も自分たちの要望でできた企画をやってもらえとなれば、参加の声がか  
けも違ってくると思うので、ニーズを探ってみるということもしてみてもどうか。
- 委 員：校長会の中でも話題にしてみたい。
- 委 員：小中学生を呼び込むという意味で、「〇月〇日には作品解説を行なう、学校ではできな  
いような作品の見方の学習ができます」など、学校へ呼びかけてみてはどうか。
- 館 長：今のようなお話の類は、CATVを通して職員がユーモアを交えながら行っているもの  
はある。
- 委 員：本物を目の前にしながらそんなことができればまた良いと思う。学芸員がいるので、美  
術の鑑賞事業がここでできるというように学校へ働きかけてもらえれば、入館者の小中  
学生ゼロというのも無くなるのではないか。

## (2) 平成28年度以降の計画（案）について

事務局：資料10～11ページについて説明

館 長：前回の運営協議会で話があったため、中川さんの企画展を飯山で開催することについて  
中野市の小島教育長へ事情を説明し、了解をいただいている。

委 員：沿線美術館の企画展について、作品借用先の美術館との交流という点で、飯山の作品を  
展示して企画展を開催して欲しいというような交渉のようなものはしているのか。お互  
いに違ったものを開催することでお互いのPRにもつながるので、積極的にお願  
いした方が良いのではないかと思う。

事務局：今回考えている企画展では、作品をお借りして飯山で展示するという話だけであるが、  
作品借用のお願いにうかがった際には、雑談程度だが、お互いに連携できるような方向  
へ行くとありがたいというような話しをした経過がある。

委 員：ぜひともそこから先へ進んでもらいたい。

## (3) その他・・・ 特になし

## 5 その他

事務局：現運営協議委員の任期が今月末をもって任期切れとなる。4月から2年間お勤めいただき運営協議委員の推薦を現在各団体へ依頼し、また、公募委員も募っているところである。学校の先生方は異動があるため、その様子を聞きながら委員の選出が済んだところで新年度の委員会を開催したいという計画であるため、ご了承をお願いしたい。

## 6 閉 会

館 長：長時間ありがとうございました。お陰様で前回までにいただいた意見をできるだけ担当で検討し、実施してきました。今後も担当者がそのように努力してくれると信じている。人数は少ないが、積極的にやってくれていて嬉しく思っている。  
今日は新幹線開業に向けて官公庁との連携、回遊性の件、小中学生の美術館利用の件など、熱心にご意見をいただきありがとうございました。  
油科先生には浦野先生の残任期間をお勤めいただきありがとうございました。また新年度からお願いすることになった際はよろしくお願ひします。  
今日はどうもありがとうございました。

(16:40 終了)